産業観光
きりゅう紀行⑱

百年近くを経て現役
工学部永遠のシンボル

群馬大学工学部同窓記念会館

群馬大学は、大正４年12月に創設された桐生高等染織学校を前身としている。この記念館は校舎として、その２年前から工事が着工されており、大正５年（1916）に竣工となった。

現在の記念館は、当時の本館の一部とそれに附属する講堂を昭和47年に移設（曳家）し、さらに平成２年に改修をほどこしたものである。

旧本館の本来の姿は、左右に翼を伸ばしたように長大で華麗のものであったが、移設にあたって割愛せざるを得なかった。

構造は木造、延床面積987㎡（本館は二階建て、講堂は平屋）、建材は主に日本の杉が使われ、土台は煉瓦積み、外壁は下見板張りのペイント塗りになっている。

旧講堂の空間は広く、構造は平屋であるが、二階あるいは三階ほどの高さの吹き抜けになっており、大空間を支えるためにハンマービームと呼ばれる工法が用いられている。吹き抜け二階の両サイドと後部が桟敷となっており、装飾的な壁龕（へきがん＝壁の凹みの部分）を背にした演壇、整然と並べられた長椅子、それらがあいまって、古い教会に感じられるような荘厳な雰囲気を醸し出している。このため、写真撮影や映画のロケに使われ、秋のクラシックカーフェスティバルでは旧車との絶妙のマッチングで人気スポットにもなっている。

旧本館には同窓会本部があり、旧講堂はその総会などに使われ、ともに現役を誇る。

織物業界の要請により生まれた産業教育の拠点に100年近くの歳月が流れ、かつての姿を知るＯＢたちにとって、また現在の姿しか知らない学生たちにとっても、工学部の永遠のシンボルとなっている。

●住　　所／桐生市天神町１－５－１
＊群馬大学工学部キャンパス内・学校敷地内のため、守衛所で記名の上見学のこと。原則として休日は外見のみ見学。団体の場合は事前に要予約
●電　　話／0277－30－1111
●国登録有形文化財・2002 わがまち風景賞